

(報告) 20年度 ユーザー理解活動

公益財団法人 自動車リサイクル促進センター

2021年6月7日

《目次》

1. 20年度 ユーザー理解活動に要した費用	・・・ P2
2. 第4回「クルマのリサイクル作品コンクール」の実施結果	・・・ P4
3. JARCウェブサイトへのアクセス数集計結果	・・・ P7
4. ニュースリリースの配信結果	・・・ P8
5. 運転免許教習生の関心を高める取組み結果	・・・ P9
6. 若者の関心を高めるコンテンツの創造・発信の結果	・・・ P10
7. 動画コンテンツを使った関心を得る取組みの結果	・・・ P11
8. ユーザーの関心事に応じたコンテンツ創造と発信	・・・ P12

1. 20年度 ユーザー理解活動に要した費用

2020年度ユーザー理解活動に要した費用は、**25,977万円**（執行率：99.1%）であった。新型コロナの影響により、環境関連イベントでの活動費（下表#1、#4）の執行率は低くなった。一方、代替策に要した活動（下表#2、#3）により費用が増え、執行率が高くなった。

＜ユーザー理解活動に要した費用の内訳＞

（単位：万円）

#	取組の方向性	施策例	年度 計画額 ①	年度 決算額 ②	執行率 ②/①
1	全国万遍なく、環境関連イベントに出展し、自動車リサイクルの取組・成果の認知向上の機会を創出する	●自治体と共に取り組む地域イベントへの出展 ●常設展示施設での情報提供 他	5,600	280	5.0%
2	若年層に向けた情報発信を強化する	●関係者と共に取り組む現場見学会 ●クルマのリサイクル作品コンクール ●自動車教習所での情報提供	8,200	10,656	130.0%
3	各種メディアを活用して露出を高める	●ユーザーの関心事に応じた情報提供 ●PR映像による関心喚起に向けた情報提供	9,000	12,798	142.2%
		●ニュースリリースの積極的配信 ●その他のパブリシティ活動	0	0	-
4	身近なところから、ユーザー視点で分かりやすい情報へと改善を行う	●公式ウェブページ等での情報提供 ●チラシ・ポスター等の広報ツールの制作 ●自動車リサイクル実績冊子の制作【新規】	1,800	533	29.6%
5	自動車リサイクルの現状や実態の変化等を把握する	●ユーザーの認知状況の把握 ●各種ユーザーニーズの把握	100	81	81.3%
6	広報・PRの専門家を助言や支援を受けながら、質の高い情報を、効果的に発信する	●新規取組の実務支援 ●リスク低減の観点での支援 ●情報発信の効果検証 他	1,500	1,628	108.5%
合 計			26,200	25,977	99.1%

*合計額には、人件費・管理費等を含まない。 ユーザー理解活動に要した費用は特預金と繰越金から負担される。

#	主要な施策とその実績（まとめ）
1	●全国地域イベントでの取組み ・新型コロナの影響により全国19か所の内13か所が中止。唯一対面方式で開催された岐阜イベントに出展。その他、オンライン方式やパネル展示のみで開催された自治体（名古屋・仙台・北九州・京都・松山）からの要請に応え、広報ツールを活用し、地域ユーザーの認知拡大に取り組んだ。 ●常設展示施設での取組み ・新型コロナの影響により来場者数は縮減したものの大阪と東京の環境施設に設置する自動車リサイクルブースにて来場者に対する理解普及に取り組んだ。また、大阪の常設展示施設を活用し、一般ユーザー65名を対象とした自動車リサイクルセミナーをオンラインにて実施。
2	●小学生の学校教育と連動した取組み ・新型コロナの影響により小学生等を交えた自動車リサイクルの現場見学会は中止。その代替策として自動車リサイクル博士が現場を紹介する施策を6回実施。その情景を小学生新聞を始めとした各種メディアに7回展開（約144万部）。また、全国小学校などに述べ3万か所に展開。 ・全国小学校からのニーズに応え、前倒しの9月から「クルマのリサイクル作品コンクール」の作品の募集を開始。結果、全国から217団体、10,127作品を受領し、自動車リサイクルの関係者の協力を得て入賞作品を決定。 ●運転免許教習生に対する取組み ・運転免許教習生に向けて、リサイクル料金の支払やその用途などを運転免許学科教本（約76万部）に掲載。 ・若年層の関心喚起を図るために新たに動画（ゴミ人間ペルくん）を制作し、全国自動車教習所250か所で配信（約90万回）。
3	●ニュースリリースの積極的配信 ・効果的な広報活動の一環としてのニュースリリースを合計23回配信。当該情報がネットメディアに1,204件掲載されるなど、露出を高める取組を実施。 ●メディアミックスによる効果的な取組み ・各種イベントへの出展のタイミングで“映像”と“音”によるわかり易い広報映像を地上デジタルで1,687回、BSデジタル放送で191回配信。 ・週刊東洋経済約8万部、日経ビジネス約9万部、日経ウーマン約18万部、日経ESG約1万部の定期刊行物で展開し、関心を得る取組みを推進。 ・新型コロナの影響により中止した「クルマのリサイクル作品コンクール」表彰式の代わりに、全国紙約730万部を使って入賞結果を周知。
4	●ウェブページを活用した情報発信と改善 ・年間通じて、広報映像やリサイクル博士のキャラクターなど活用し、タイムリーな情報を発信。結果、ウェブページへのアクセス数751千件獲得。 ●その他のパブリシティ活動 ・公式キャラクターを活用するべく、最後となる“ゆるきゃらクランプリ”に出場し、関係者の協力を得て、9,692票の投票を獲得（291体中44位）。
5	●各種ユーザーニーズの把握 ・クルマのリサイクル作品コンクールに参加した小学校から得た46件のアンケートから、当該作品コンクールを改善していくための様々なニーズを把握。 ・定点観測として行っているユーザーを対象としたアンケート調査の結果、自動車リサイクルに関しての認知状況等を確認（約71%）。
6	●情報発信の効果検証・新規取組の実務支援 ・メディアでの「自動車リサイクル」に関する露出は6,827件の確認。情報に接触した人数は延べ約7億7,711万リーチ・ポイントであることを確認。 ・クイズに関連する著名人とコラボした動画コンテンツを制作・配信し50万回再生を獲得。事前告知についても120万件表示件数を獲得。

2. 第4回「クルマのリサイクル作品コンクール」の実施結果 その1

第4回クルマのリサイクル作品コンクールを開催し、全国から**217団体、10,127作品**（前年度6,779作品）の応募を受け、入賞作品を選定した。※表彰式は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために中止。中止した表彰式の代替策である個別訪問表彰を一か所実施した。

※入賞作品の情報は次のURL参照：https://www.jarc.or.jp/competition_count/contest2020result/

【最優秀賞】



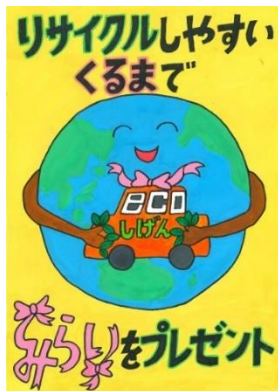
車たち
生まれかわって
そばにいる

【小学生新聞賞】



リサイクル
過去と未来の
夢のドライブ

【審査員特別賞】



再利用
車が生み出す
可能性

また会える
まわすハンドル
みらいへと

おもいでの
つまったクルマ
よみがえれ

2. 第4回「クルマのリサイクル作品コンクール」の実施結果 その2

【団体賞】

大阪府吹田市立東山田小学校
東京都品川区立八潮学園
広島県東広島市立郷田小学校
京都府京田辺市立松井ヶ丘小学校
奈良県王寺町立王寺小学校
神奈川県平塚市立南原小学校
大阪府寝屋川市立第五小学校
東京都東京創価小学校
愛知県知多市立佐布里小学校
東京都江東区立枝川小学校

【団体特別賞】

徳島県阿南市立伊島小学校
鹿児島県指宿市立利永小学校
沖縄県竹富町立波照間小学校
福島県相馬市立磯部小学校

団体賞は応募数が多い小学校を対象としていたが、児童数が少ない小学校が賞を受けるチャンスがないことが課題であった。この度、小学校の児童数に対して、応募数の割合が高い小学校を表彰できるようにするために、「団体特別賞」を設けた。

～ 中止した表彰式の代替策の取り組み状況（個別訪問表彰）～

20年度表彰式は、新型コロナの影響により中止を決定。
その代替策として取り組む個別訪問表彰の実施に向けて、入賞者とその保護者、小学校等との協議を進めている。調整でき次第、順次実施する予定。
その内、3月26日をもって閉校が決まっていた「鹿児島県指宿市立利永小学校」については、小学校関係者の要望を受け、前倒しで個別訪問表彰を実施。

指宿市立利永小学校は、1876年に開校し、創立144年になる歴史ある小学校（児童数17人）。3/26をもって閉校となり、市内3校が統合されることとなった。



時の流れを感じる立派な校舎



みんなでお迎え



メディア4社に
囲まれ表彰式



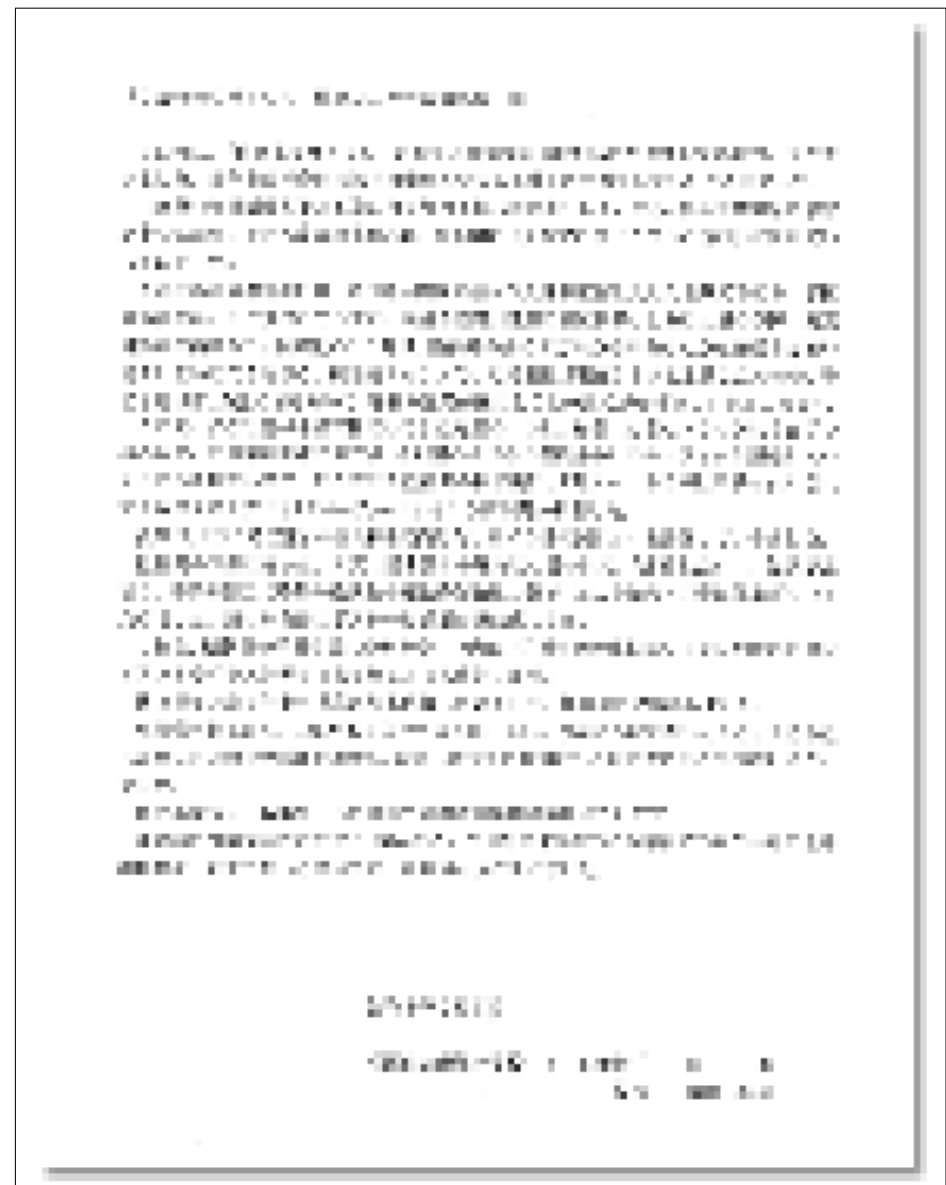
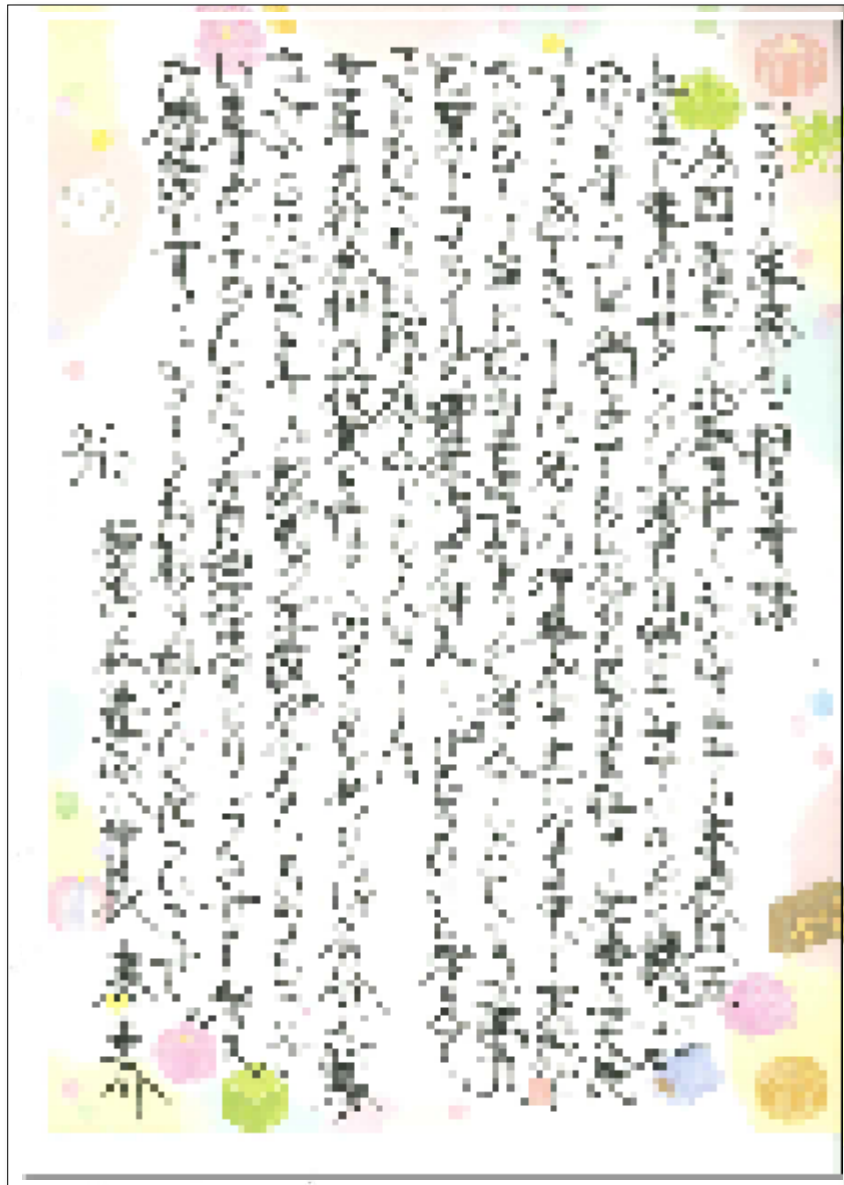
最後の記念撮影



鹿児島読売テレビ
報道ニュース
「every」で紹介

2. 第4回「クルマのリサイクル作品コンクール」の実施結果 その3

(参考) 小学校からいただいたお手紙のうち、次の2通を紹介します。[このページは非公開とします]



3. JARCウェブサイトへのアクセス数集計結果

2020年度のJARCウェブサイトへのアクセス数は**751千件**(前年同期115.2%)であった。クルマのリサイクル作品コンクールに関するサイトにアクセスが集まり、これを起点として自動車リサイクル制度ができた背景やその概要などのページを周回される傾向が観られ、結果、各ページの閲覧数の底上げが図ることが出来た。

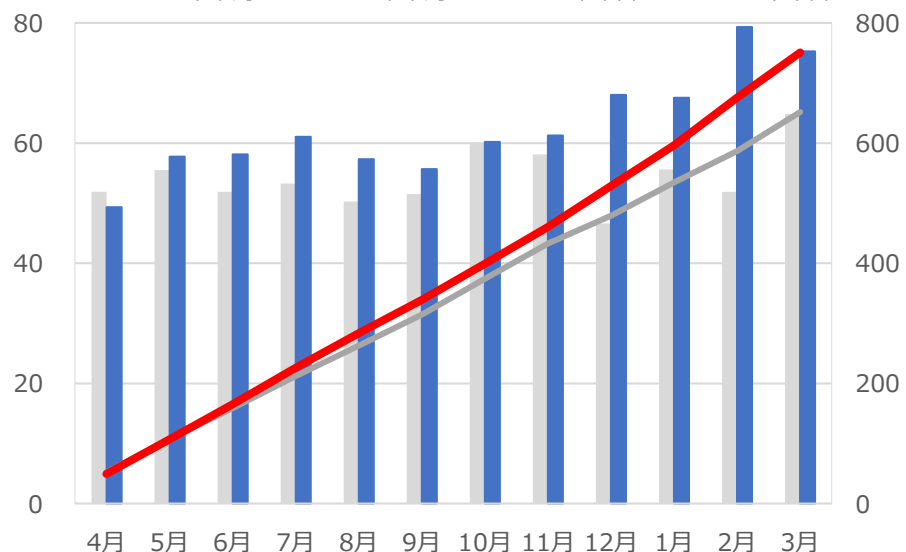
(1) 年間 ウェブサイトへのアクセス数の推移

(単位：千件)

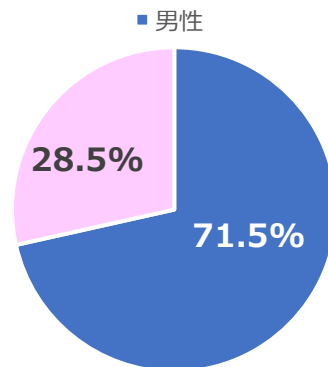
	年度		
	2018	2019	2020
アクセス数	651	652	751

(2) 月間 ウェブサイトへのアクセス数の推移

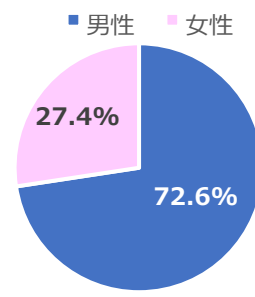
(千件) 19年単月 20年単月 19年累計 20年累計 (千件)



(3) 男女比

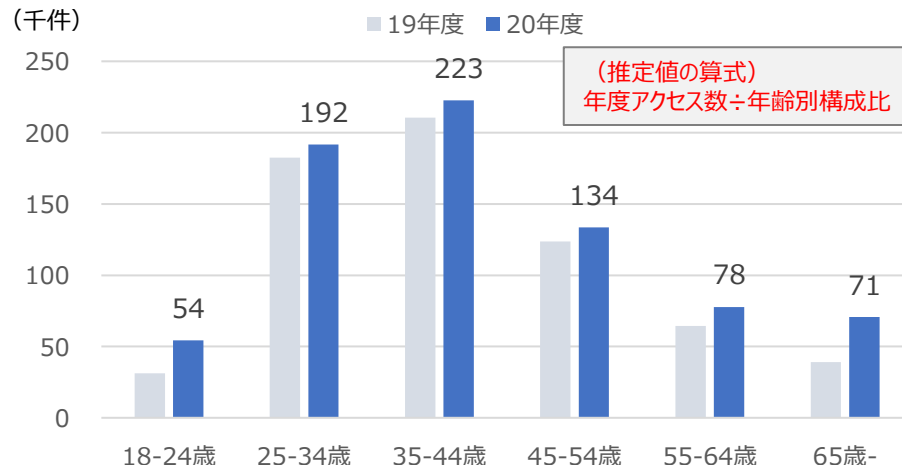


(参考)



(4) 年齢別アクセス数 (推定値)

(千件)



4. ニュースリリースの配信結果

ネットメディアでの自動車リサイクルに関する情報の露出を高めるためにニュースリリースを**23件配信した**。
結果、ネットメディアに**1,204件**取り上げられ、情報の拡散が行えた。

配信日	リリース情報	掲載数(件)	広告換算*(万円)
4/10 -7/10	令和2年度事業計画を策定 他4件	259	7,671
8/21	「自動車リサイクルデータBook 2019」本日公表	52	1,494
9/1	全国小学生を対象とした第4回「クルマのリサイクル」作品コンクール開催	50	1,399
10/1	「ゴミ人間ペルとクルマくん」自動車リサイクル 絵本動画を本日公開	52	1,393
10/7 -10/23	長野県発行のグリーンボンドに投資 他2件	160	4,348
11/6	第3回クルマのリサイクル作品コンクール受賞者を表彰 北海道函館市立大森浜小学校 太田こみさん 他6件	362	9,887
12/10	独立行政法人国際協力機構発行のソーシャルボンドに投資	54	1,422
1/4	「進めよう、クルマのリサイクル！ つくろうみんなで、循環型社会！ P R 動画」を本日から全国公開	50	1,408
1/29	AI チャットボットによるお問い合わせサポート 新たなユーザーサービスを本日から開始	53	1,511
2/18	独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構発行のサステナビリティボンドに投資	58	1,539
3/29	第4回「クルマのリサイクル」作品コンクール入賞者決定	54	1,422
合 計		1,204	33,418

News Release

公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
2020年11月6日

全国の小学生を対象とした
第3回クルマのリサイクル作品コンクール受賞者を表彰
ポスターの部：最優秀賞
北海道函館市立大森浜小学校 太田こみさん
主催：自動車リサイクル促進センター

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（所在地：東京都港区、代表理事：中村繁）は、小学生の学校教育での学びを通して、毎年の日本の自動車産業や環境保全を考えていただくために、2019年11月から2020年2月29日までの期間、全国の小学生を対象とした第3回「クルマのリサイクル」作品コンクールを開催しました。

全国から6,779名の「クルマのリサイクル」テーマでまとめた絵画・ポスターが寄せられ、厳正な審査の結果、2020年3月27日、入賞作品は60点及び団体10校を選定しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から表彰式の開催を中止としておりました。

※作品コンクールの結果 <https://www.jarc.or.jp/content/>

2020年10月9日（日）、自動車リサイクルの公式YouTubeチャンネル「クルマのリサイクル」で北海道函館市の私立大森浜小学校の児童が、ポスターの部：最優秀賞を受賞した太田こみさん（8歳）を表彰いたしましたのでお知らせいたします。

＜表彰の様子＞

作品コンクール受賞者を表彰

News Release

公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
2021年1月29日

自動車リサイクル促進センター
AI チャットボットによるお問い合わせサポート
新たなユーザーサービスを本日から開始
～自動車リサイクルに関する疑問に答えよう～

公益財団法人自動車リサイクル促進センター（所在地：東京都港区、代表理事：中村繁）は、本日から、AI チャットボットによるお問い合わせサポート（AIチャットボット）を開始します。

本サービスは、AI（人工知能）を活用し、自動車リサイクルに関するご質問に自動でお答えするサービスで、自動車リサイクルシステムの Web サイト上で、24時間 365 日、提供します。パソコン、スマートフォン、タブレットでご利用できます。

今後のデジタル化の進展や社会環境が変化する中、自動車リサイクルに関するご質問にお答えする既存のコールセンターによる対応と Web サイトに掲載している Q&A に、AIチャットボットによるサポートを加えることで、自動車リサイクルに関わるユーザーサービスの拡充を図ることいたしました。

本財団は、引き続き自動車リサイクルに関するユーザー満足度向上に向けた取組みを進めてまいります。

＜ご利用方法＞

新たなユーザーサービス

*メディアに記事掲載された際の露出効果を、同じ枠を広告として購入した場合の広告費に換算したもの

（転載メディア例）

毎日新聞、朝日新聞、四国新聞、京都新聞、奈良新聞、山形新聞、福井新聞、沖縄タイムスプラス、紀伊民報、千葉日報、宮崎日日新聞、新潟日報、茨城新聞、徳島新聞、福島民友、紀伊民報、山梨日日新聞、河北新報、上毛新聞、秋田魁新報、下野新聞、週刊女性PRIME、AFP BBNews、楽天 NEWS、Google ニュース、Impress Watch Headline、excite ニュース、J-CAST ニュース、CNET Japan、他

5. 運転免許教習生の関心を高める取り組み結果

運転免許教習生に向けて**約76万部**の運転免許学科教本に自動車リサイクルに関する情報を掲載し、そして全国250か所の教習所にて動画コンテンツを**約90万回**配信した。また、運転免許教習生に自動車リサイクルに関するアンケート調査を行った結果、10代・20代の認知度が上昇していることを確認した。

(調査概要)

全国10か所の自動車教習所でアンケート調査を実施。(2021年2月の場合：北海道、青森、山形、群馬、神奈川、静岡、愛知、和歌山、島根、宮崎)
調査対象は「運転免許教習生 男女」。調査方法は「留置法」。調査会社は「日本カーライフアシスト株式会社」。

■ 2020年2月：サンプル数815件、男女比：59%:41%、20代以下：全体の約86%、自家用車保有率：約94%

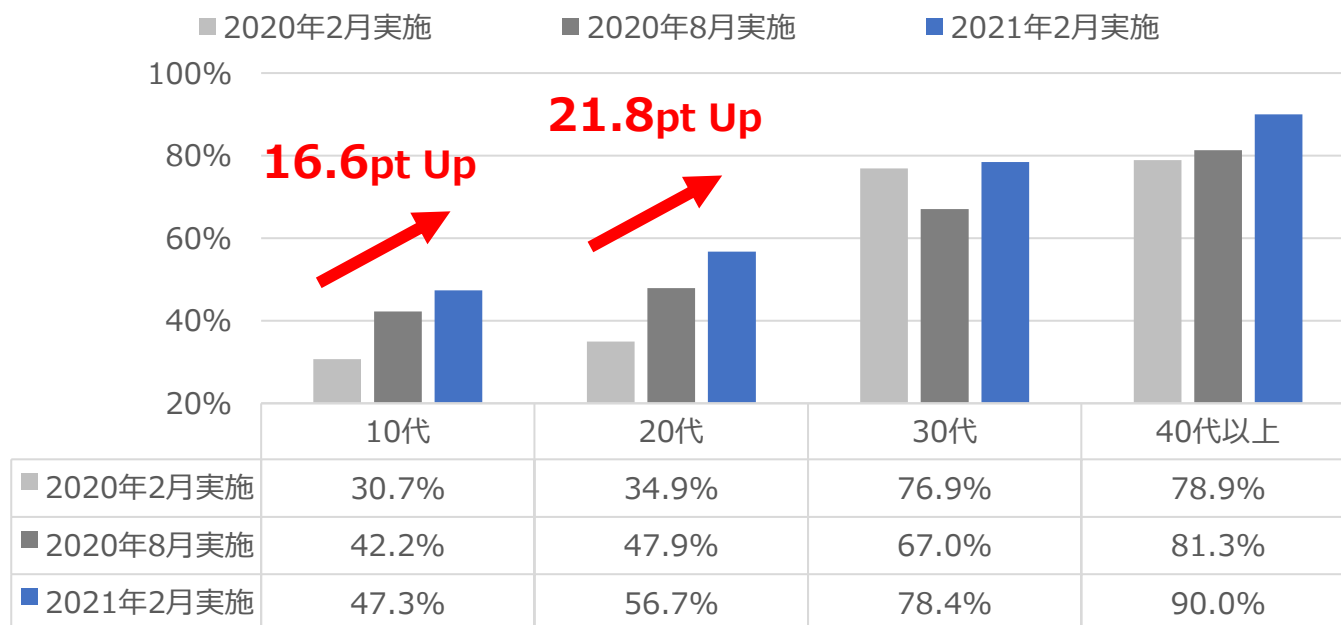
■ 2020年8月：サンプル数998件、男女比：62%:38%、20代以下：全体の約73%、自家用車保有率：約88%

■ 2021年2月：サンプル数987件、男女比：57%:43%、20代以下：全体の約89%、自家用車保有率：約92%

(Q)「自動車リサイクル」のこと、どの程度ご存じですか？

(A) ①どんな仕組みか概要を知っている ②名前を聞いたことがある程度 ③まったく知らない

「①どんな仕組みか概要を知っている ②名前を聞いたことがある程度」を選択した割合



6. 若者の関心を高めるコンテンツの創造・発信の結果

自動車リサイクルに関して若者の関心を高めるために、著名人とコラボしたタイアップ動画を制作・発信した。結果、2021年3月末までに**45万回以上**再生されるとともに、動画コンテンツへのコメントからも幅広い視聴者に「自動車リサイクル」を楽しく知っていただく取り組みを行った。

（１）タイアップ動画の概要

タイトル：【悲報】東大生のプレゼン、難しすぎて理解できない
 本動画の視聴回数：459,957回（3月末時点）
 サブ動画の視聴回数：40,308回（3月末時点）
 高評価：9,899回／98.3%、平均視聴時間：7:59



動画は次のURLを参照ください。

<https://youtu.be/3ZUAGvFYwAk>

（２）視聴者の特性

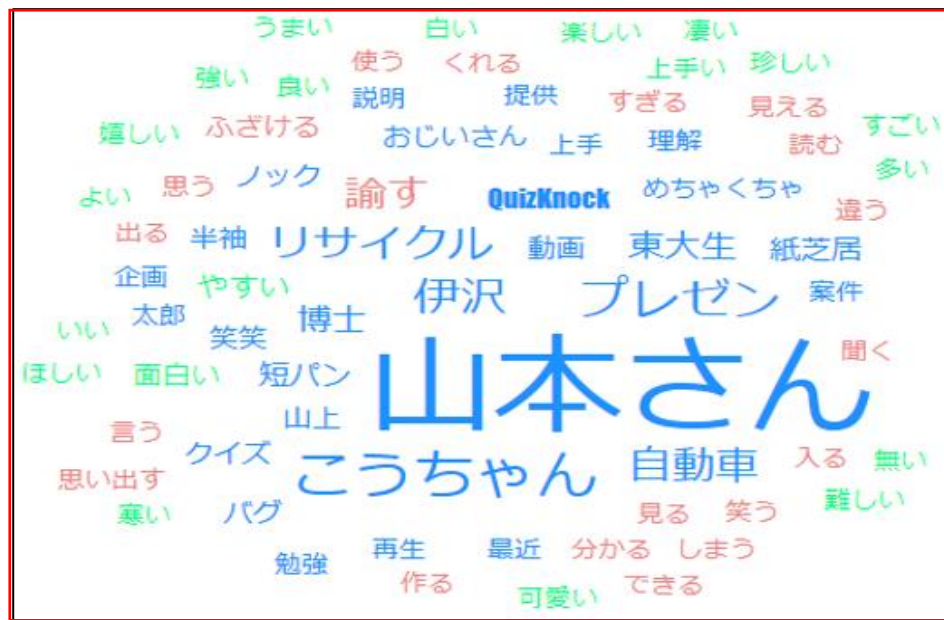
全視聴者の83.4%が、34歳以下の年齢。
視聴者の性別は、男性61.2%、女性38.8%であった。



（３）動画コンテンツに対するコメントを分析

当該動画について合計818件（3月末時点）のコメントが寄せられた。コメントの傾向をみるために、文字の大きさ・場所・色などで視覚化したテキストマイニングによる分析を行った。

大きく示される出演者名のワードに「自動車」や「リサイクル」「博士」のワードが出現し、その関連性が強く示され、幅広い視聴者に対して「自動車リサイクル」を「楽しく」知っていただくことができた。



青色は名詞、赤色は動詞、緑色は形容詞を示す。文字が大きいと頻出度が高く、文字同士の近さはその関連性の高いワードとして表現される。

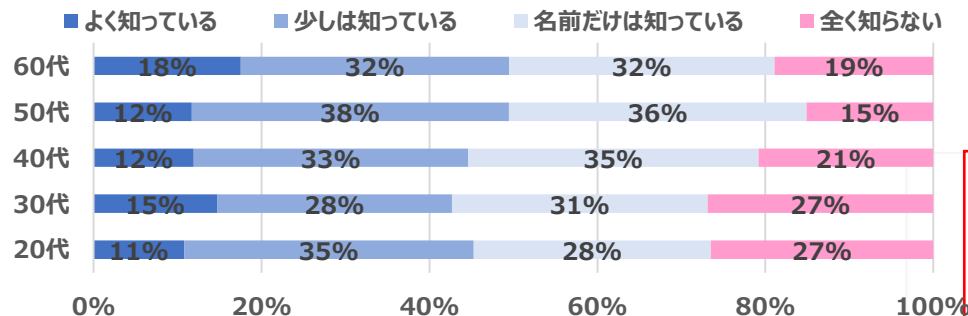
7. 動画コンテンツを使った関心を得る取組みの結果

“映像”と“音”によるわかり易いメッセージの配信を通じて、ユーザーを含む国民一人ひとりの関心を得る取組みを行うこととしており、地上デジタル放送**1,687回**、BSデジタル放送**191回**配信し、**延べ2億8千万世帯**に情報を届ける取組みを行った。また、新たに制作した動画コンテンツを視聴した方の反響の確認を行った。

(1) 実施概要

- 1) 対象：動画コンテンツを視聴した18歳以上の男女
- 2) 実施期間：2021年3月1日～3月3日
- 3) 実施方式：インターネット方式
- 4) 回収数：**1,653件**(運転免許保有データを下に割振)

自動車リサイクルに関する認知状況（年代別）

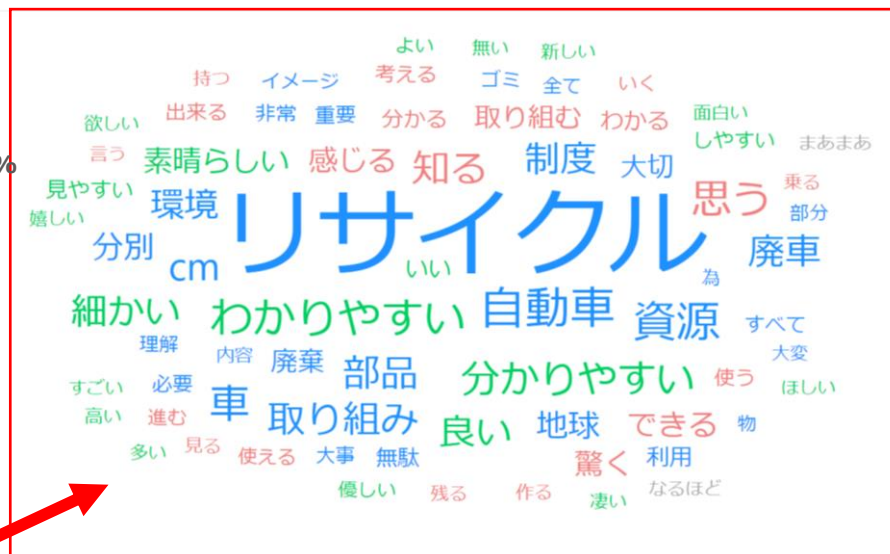


配信期間：2021年1月4日～3月31日

(2) 結果の概要

アンケートで得た1,516件のコメントを分析した結果、「リサイクル」を中心として、「わかりやすい（分かりやすい）」「資源」「自動車」がワードとして頻出。本動画を視聴したことで、「自動車」「リサイクル」「制度」が「地球」「環境」や「資源」にとって、「大切な」「良い」「取り組み」であることを「わかりやすく」「知る」ことができたことが窺える。

※ワードクラウドスコアが高い単語を複数選び出し、その値に応じた大きさで図示しています。単語の色は品詞の種類で異なっており、青色が名詞、赤色が動詞、緑色が形容詞、灰色が感動詞を表しています。



全てのコメントをテキストマイニングの結果

8. ユーザーの関心事に応じたコンテンツ創造と発信

日経ビジネス読者（約18万部）に向けた情報発信

4/5、現在のビジネスユーザーが関心もつ、循環経済の実現に向けて自動車リサイクル制度が果たすべき役割を、日経ビジネスの読者に向けて発信した。（記事は、[こちら](#)）



サーキュラーエコノミーの実現に貢献する 自動車リサイクルの取り組み

廃棄物を出さずに資源を循環させる「サーキュラーエコノミー（循環経済）」の実現に向けて、けん引役として期待される「自動車リサイクル」。その取り組みの現状と今後について、中部大学教授の細田衛士氏と自動車リサイクル促進センター（以下、JARC）業務執行理事（CFO）の黒澤秀雄氏に話を聞いた。

循環型社会の実現を 着実に進めてきた日本

従来の大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした「リニアエコノミー（直線経済）」ではなく、資源や製品を循環利用することでその価値をできるだけ長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小化する「サーキュラーエコノミー（循環経済）」、SDGsに掲げられた持続可能な社会を実現する経済システムとして、その重要性は産業界にも浸透しつつある。

細田「天然資源の経済へのインパクトをなるべく少なくするとともに、経済系から自然系に出される廃棄物可能なアウトプットを少なくする。そのためには、あらゆる資源を高度に繰り返し利用したほうがいいわけです。具体的には、廃棄物の発生を回避する。持ち手を変えてリユースする、リサイクルして素材に戻す。さらには熱回収するなど処理に関する原則がありますが、こうした廃棄物処理の

優先順位に従って高度な資源の循環利用を行うのが、サーキュラーエコノミーの基本的な考え方です。

2015年12月にEUが「サーキュラーエコノミーパッケージ」を採択し、サーキュラーエコノミーを主導しているのは欧州だと言われますが、20年以上前に「1999年循環経済ビジョン」を策定し、世界に先駆けて3Rに取り組みできた日本のはうが、循環型社会を確実に推進してきたと言えるかもしれません。

欧州版のこのパッケージは、環境保全だけでなく経済の活性化にもウエートを置いており、「経済と環境・資源のWin-Win」を目指しているのが特徴です。これに呼応して、我が国でも経済産業省が「循環経済ビジョン2020」を発表しましたから、EUとはいっしょの意味でライバル関係にあるのが現状です」

黒澤「確かにこれまでの産業界では、経済と環境は相反する関係と捉える傾向がありましたが、我が国の2050年温室効

果ガス排出量実質ゼロ宣言によって、流れが変わった感じはありますね」

細田「どこまでできるかは別にして、理想型に向けてまずはやってみよう、と動き出したという意味では、この宣言は大いに評価できると思います」

自動車リサイクル制度が 果たすべき役割とは

そんな我が国のサーキュラーエコノミーをけん引する役割を担う取り組みとして早くから環境対策を進めてきたのが「自動車リサイクル」の分野だ。20世紀後半に起こった天然資源の枯渇、地球温暖化、さらには廃棄物の最終処分場の逼迫といった様々な課題に対応するため、02年に制定された「自動車リサイクル法」をきっかけにスタートした自動車リサイクル制度が今後果たしていくべき役割への期待は大きい。

黒澤「鉄、鋼、アルミなど多くの金属が使われている自動車のリサイクル率は日本

の様々な製品と比較してもトップクラスであり、リサイクルの優等生と言われています。しかし、近年はプラスチックやガラスなどのマテリアルリサイクルをはじめ、電気自動車の普及に伴うリチウムイオンバッテリーのリサイクルなど、新たな取り組みを進める必要が生じています。

JARCは自動車リサイクル制度を支える唯一の指定法人として、また自動車業界の横断的機関として、リサイクル料金の運用・管理、使用済み自動車の適正な処分の管理などを通じて、自動車リサイクル制度の安定運用に努めています。とくに自動車ユーザーが自動車購入時に支払う1万円程度のリサイクル料金の残高は現在9300億円にも上っており、そのお預かりしたリサイクル料金を安全かつ確実に運用・管理することは、ユーザーに安心して自動車リサイクル制度に参加していただくという意味でも、本財団の重要な役割です。こうしたリサイクル料金の管理・運用については、経済、金融、環境の専門家とユーザー代表からなる資金管理業務諮問委員会でご意見をいただくながら、強い責任感と使命感を持って進めています」

ESG投資を通じて 社会問題の解決にも貢献

持続可能な社会の実現に貢献したいという思いから、JARCが18年から開始したのがESG投資だ。

黒澤「19年には独自のESG投資の方針を策定・公表し、それによって過格性の評価を得た債券への投資、発行体などのエンゲージメントの推進、金融の専門性に対応するための運営体制の強化を柱に、自動車ユーザーからの信頼に応えるべく実施しています」

細田「ESG（環境、社会、ガバナンス）を考慮する重要性が、ようやく日本でも浸透してきました。環境対応には非常にコストがかかるため、サーキュラーエコノミーや削減要素といった動きは金融的な裏づけがないと進めるのが難しい。

社会や環境を良くするため、平和な世の中をつくるために、適切かつ持続的なESG投資の実施は、これからますます重要になっていくはずです」

黒澤「我が国の自動車リサイクル制度は自動車の廃棄時ではなく購入時に前払いでリサイクル料金を支払うため不法投棄などが起きにくく、世界的にも画期的な制度と言われています。また、この制度では自動車ユーザーの役割も重要です。

ユーザーはリサイクル料金の支払いと使用済み自動車をリサイクルルートに乗せる役割を担うことで、環境保全、資源の有効活用といった循環型社会に貢献し、自動車リサイクル制度の円滑な運営に寄与します。それと同時に、ユーザーはリサイクル料金の運用によるESG投資を通じて、地球温暖化などの環境問題や発達途上国におけるインフラ整備といった、社会課題の解決にも寄与しているわけです」

大変革期を迎える 自動車リサイクルの今後

今自動車産業界は「100年に一度の大変革」と言われる時代を迎えている。サーキュラーエコノミーに対する関心が高まる中、自動車リサイクルは今後、どのように進んでいくのだろうか。

黒澤「環境性能、安全性能、運転性能に対する新たなニーズが出現し、そのニーズの多様化によって自動車を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。自動運転や電気自動車の技術が本格化してくると、自動車を構成する部品や素材の変化も予想され、リチウムイオンバッテリー



やCFRP（炭素繊維強化プラスチック）の安定的なリサイクルが必要となります。また、プラスチックリサイクルの高度化への要請も高まっており、こうした課題に対して国や地方公共団体、自動車リサイクルの関係者と連携しながら、環境と経済の好循環を両立させて、循環型社会の実現に貢献していきます」

細田「CFRPは軽くて強い素材なので燃費も良くなり、低炭素化には有効です。しかし、廃棄する際の環境負荷が大きく、その矛盾をどうやって解いていくかが重要になってきます。脱炭素社会の実現に向けてどのようなロードマップを作ればいいのか、自主的な動きで取り組んでいくことが重要になっていくでしょう。その1つの知恵が、JARCのような公益法人が資源とつながる公益と私益をマッチさせることだと思います。今後の活動に大いに期待しています」

JARC 公益財団法人 自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC
〒105-0012
東京都港区芝大門1-1-30日本自動車会館11階
<https://www.jarc.or.jp/>

まとめ

1. 20年度活動の成果

新型コロナの影響により、直接ユーザーとコミュニケーションを図る機会は減少したものの、自動車リサイクルの関係者の力強い支援を得て、そしてICTを駆使した工夫を加えることにより幅広くユーザーに質の高い情報を届けることができた。結果、自動車リサイクルについて、幅広くユーザーの認知拡大と関心喚起を図ることができ、本財団ウェブサイトへのアクセス数増につなげることができた。

2. 21年度活動の方向性

- 認知度71%であるため、ユーザーの認知拡大・関心喚起に向けて改善に取り組む。
- 新型コロナの影響により制約された情報共有・学習などの活動にも対応したオンラインによる新たなユーザーサービスを設え、これを最大限活用して理解普及に取り組む。
- SDGsなど、人々の意識やライフスタイルの変化に対応した施策を検討・実施する。